

「肺がんと早期発見」

今日は「各種がん登録からみる肺がんについて」と「がんは早期発見が大事」の2点についてお話ししたいと思います。

早速ですが、始めに「肺がんについて」ですが、肺がんは全国的にもがんの中で死亡者数第一位を占めており、男性では、がん死亡者総数の24%で、約4名に1人の割合を占めています。がんにかかっている人の数、つまり罹患者数は大腸がん、胃がんが続いて第3位となっており、がん罹患者全体の約13%になります。男女差にも顕著に現れていて、肺がん死亡者数は男性の方が女性の約2.5倍、罹患者数は約2倍多くなっています。

沖縄県内においてもがん死亡者数第1位は肺がんという結果が出ています。

沖縄県全肺がん登録数に占める沖縄病院患者数の二次医療圏別割合では、八重山保健医療圏で最も高く40.8%、続いて北部地区医療圏で36.7%、宮古保健医療圏24.9%で、北部・離島圏の肺がん治療（特に外科手術）を支えていると推測されます。

次に、「がんは早期発見が大事」ということですが、どういうことなのか、これからお話を進めて行きたいと思います。

当院の院内がん登録データを見ますと、がんだとわかったきっかけは、の間に第1位が体に異変又は症状が起きたから、第2位に他の病気の検査などを受けた際にたまたま見つかった。第3位に定期検診時と回答されています。また、体に異変が起きてから病院へ行った患者さんよりも、がん検診・人間ドック・健康診断等の定期健診時に異変が見つかり、病院へ紹介されて早期がん発見に繋がる結果が出ています。

早期がんは回復も早く、生存率も高くなります。また、時間的・経済的負担も軽減されます。ですので、せめて年1回の定期健診をぜひ受けていただきたいと思います。今日は肺がんに関すること、早期発見の重要性についてお話させていただきました。この放送を聞いている皆さまが一人でも多く定期的な健診を受け、明るい生活が送られますよう願っています。

【参考資料】

沖縄県のがん登録

がん情報サービス がん登録・統計

沖縄病院 2013年院内がん登録データ

平成28年度沖縄県がん登録事業報告（平成24年（2012年）の罹患集計）

がん統計 '15 『公益財団法人 がん研究振興財団』

がん統計 '14 『公益財団法人 がん研究振興財団』